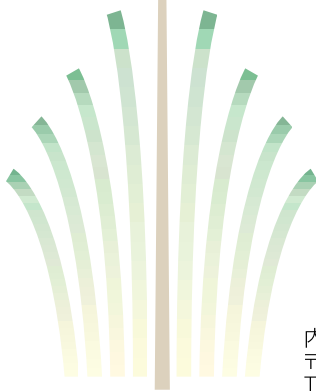


くすり博物館だより

VOL. 55

平成18年(2006)6月

NAITO MUSEUM OF PHARMACEUTICAL SCIENCE AND INDUSTRY



内藤記念くすり博物館
〒501-6195 岐阜県各務原市川島竹早町1
Tel: (0586)89-2101 Fax: (0586)89-2197
<http://www.eisai.co.jp/museum/>

くすり博物館の役割

テーマ特集◆ 博物館・図書館・薬用植物園の活動



▲ 展示室



図書館を入ってすぐ左手に、エーザイ(株)内藤晴夫社長直筆の銘板「深き思い知を生む」が飾られました。なお、展示館には、故・内藤祐次名誉会長が社長時代に書かれた「照古鑒今(かんきん)」の銘板があります。



▲ 図書館

内藤記念くすり博物館では本年1月に、本館内にあった図書室から新設した図書館へと書籍を移動し、一般公開を開始しました。これで博物館の基本構想にあった建物がすべてそろいました。しかし、建物が完成すればそれで終わりという訳ではありません。博物館は活動しなければ、貴重な資料を保管するだけの倉庫になってしまいます。

では、くすり博物館の役割とは何でしょうか。

現在のくすり博物館は、次のような活動を通じて、皆様にくすりや健康科学に関する理解を深めていただくこと、そして研究者の方の医薬史の研究・調査活動にご協力することを目指しています。

- ① 医薬の歴史・文化に関わる史資料および図書の収集・保存・調査研究・展示・普及活動
- ② 薬草園の管理と一般公開

この中でも、最近特に重要になってきたのが普及活動です。健康への関心が高まるにつれ、その背景にある医薬史にも少しずつではありますが、注目されてきています。郷土史研究の一環として昔の医学者や古い薬について調べる方もあれば、文学サークルで物語に登場した医薬用語を調べる図書を探している方もありました。もちろん、薬草については、種類や利用方法だけでなく、栽培方法を知りたいという方も増えてきました。

来館者層も、調べ学習・自由研究・校外学習の小学生から薬学部的大学生まで、家族連れから企業の研修までと多岐にわたっています。

くすり博物館では、皆様のさまざまなご要望に少しでも応えられるよう、常に活動内容を模索しています。今号の『くすり博物館だより』では、その活動や取り組みの一部を紹介致します。



▲ 薬草園



企画展と図録―伝え、残すもの

くすり博物館では毎年学芸員の企画による企画展を開催しています。企画展では、常設展で普段公開されていない資料や、人気の高い資料、新収蔵資料、あるいは江戸・明治時代の図書（和装本）等をテーマに沿って展示します。当館は資料65,000点・図書62,000点を所蔵しているため、展示物はほとんどその中から選ばれます。

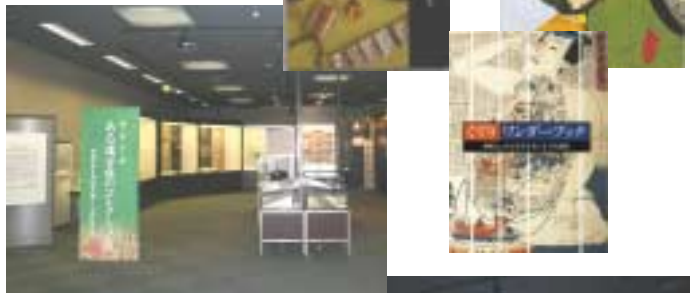
また、企画展開催時には図録を作成しています。図録には主な展示資料の写真と説明のほか、資料リストや読み下し文が掲載されることもあり、調査研究にも役立ちます。

最近では、ウェブサイトで企画展の内容と連動したコーナーを設けて、企画展開催中だけでなく、終了後も楽しめるようになっています。人気が高いのは、鍼灸についての企画展の際に設けた「ツボ体操」や、昨年「ある漢方医のコレクション」の資料を動かして遊べるコーナーなどです。

このように、収集した資料はできる限り機会を設けて一般に公開するようにしています。

▶ いろいろな図録

収蔵資料集・企画展図録のほか、こども用には「くすりワンダーブック」も制作された。



▲▶ ささまざまな展示

企画展は春～秋にかけて年1回実施することが多い。そのほか、大量の新収蔵資料を入手した場合は、右のように特別に紹介コーナーを設けることもある。



◀ 「くすりの博物館」トップページ

▶ くすり博物館のご利用案内のページ

ウェブサイト「くすりの博物館」は、2回のリニューアルを経て、現在のスタイルになりました。原則として毎週金曜日に情報の更新を行っています。

実際の博物館に関する情報（施設案内や地図、イベント紹介など）と、ウェブ上だけの情報（コラム、デジタルアーカイブ等）の両方を掲載していますので、博物館に来館される場合にも、インターネットで資料調査をする場合にも大変便利です。

特に、資料調査については、歴史のテーマ別と資料の分類別の2方向から探すことができるため、利用者の方が目的に応じて使い分けることができます。薬草のコーナーは薬草の一覧表から目的の植物を探すほか、コラムからテーマに沿った薬草を探すこともできます。薬草の写真を用いた「壁紙カレンダー」も、人気のページになっています。

ウェブサイト「くすりの博物館」

古今東西の書籍に接する

くすり博物館の図書館は、医薬の歴史を中心とした専門的な書籍と、和装本のコレクションを二本柱としています。一般的な書籍を自由に閲覧できるのはもちろん、和装本のコレクションの一部もデジタルアーカイブで閲覧できます。また、手続きを経れば、和装本の実物を閲覧することも可能です。

当館の図書は、医薬史の大家であった故・清水藤太郎先生の平安堂文庫、病理学者の故・緒方知三郎先生の緒方長寿文庫を核として、充実してきました。その後追加された大同薬室文庫は、コレクションの持ち主の故・中野康章氏が漢方医であり神職であったため、医薬史のみならず、宗教や国文学まで広い範囲にわたって収集されています。また、書籍以外にも、掛軸・巻物・短冊・書画等がコレクションに含まれています。



▲ デジタルアーカイブの画像

デジタルアーカイブより「解体新書」表紙部分。デジタル画像なので、ウェブ上でも館内に設置された検索システムでも簡単に拡大して閲覧することができる。

▼ 和装本の書庫

貴重な図書を利用しつつも将来へ遺していくために、温度・湿度は24時間体制で管理されている。



自分のデータを 知る

健康管理にかかせないのは、自分の身体についての情報です。くすり博物館では体験コーナーを設けて、身長・体重、肥満度、骨健康度、反応速度、握力、血圧、脳年齢が測定できる機器を設置しています。また、簡易版ですが、パソコンでカロリー計算ができます。

測定したデータは目安としてご参考にしていただくほか、自分の身体について関心を持っていただくという意味でご利用いただきたいと考えています。



▲ 脳年齢計



▲ 身長・体重計



▲ 体脂肪計



▲ 骨健康度計



▲ 全身反応測定器



▲ 握力計



▲ 血圧計



◀ 薬草園

四季折々の薬草が見られる。



◀ ▲ 薬草友の会

ボランティアで薬草園の維持管理をお手伝いいただいているところ。



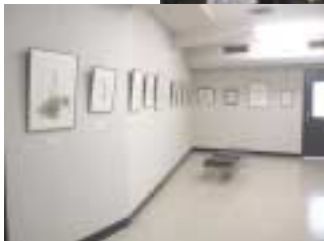
▶ 薬草園

フェスタ友の会と楽しいイベントを共催。
(5月第3土曜)



▶ 植物画ギャラリー

3ヶ月に一度展示替えを行う。



▶ 植物画講座

月に一度、絵を描くことを通じて植物に親しむ。



◀ (上から)

キキョウ、ダイヤーズ、カモミール、アマチャ
薬草のみならず、食用・工芸用その他有用な植物を栽培している。

薬草とひととのつながり

薬草栽培教室は、毎月1回の活動を通じて、薬草の栽培方法や利用方法を学ぶ1年コースの教室で、毎年募集定員を越える応募があります。栽培教室を終了すると希望者は薬草友の会に入会でき、そこでは薬草園フェスタの準備や実施、薬草園での作業を通じて薬草に親しむだけでなく、大勢の皆さんとの交流が生まれます。

また、植物画講座では、毎月熱心な方々が薬草をはじめ、さまざまな植物を描くために集まっています。もともとは薬草をよく観察し、図鑑でよく見かけるような、精密な絵を描くことを目的として開催されました。しかし、現在では植物に親しんでいただくのを目的に、スケッチや彩色画などにも範囲を広げています。

熊本大学 熊薬ミュージアム

熊本大学薬学部では、薬学教育6年制開始の今年、同学部の宮本記念館内に展示室をもうけ、「熊薬ミュージアム」として公開し、同学部の所蔵資料を展示することとなりました。

同学部のルーツは、江戸時代・肥後藩藩主・細川重賢が宝暦4年(1754)に開設した薬園・蕃滋園(ばんじえん)にさかのぼります。その後明治18年(1885)3月に設立された私立熊本薬学校在、官立移管されて、昭和24年(1949)に国立の熊本大学薬学部となりました。

熊薬ミュージアムでは、この同学部の100年以上にわたる歴史を紹介するほか、薬剤師や薬学教育、薬用植物の知識についてもパネルで情報提供を行っています。また、以前薬学部で使用されていた古い実験器具や顕微鏡等も展示しています。このほか、内藤記念くすり博物館のくすり看板、はしか絵(複製)等の貸し出し資料も、同学部資料の往診用薬箱、製薬道具、秤類等とともに展示されています。

今回の展示にあたっては当館が企画段階からご協力しましたが、実際の資料整理、展示作業には同学部の学生がボランティアで参加するなど、大学と学生が共同で運営する大学博物館となります。

熊本大学 熊薬ミュージアム
熊本市江本町5-1
Tel. 096-371-4407



とびくす

■脳年齢計をお試しください

脳年齢計のパソコン画面の指示に従ってタッチすることにより、脳年齢・脳ストレス度を測ったり、脳トレーニングができます。この装置は、ATMT法と呼ばれる脳の有効活用度を定量化したテストを行い、5分程度で簡単に測定できるものです。

くすり博物館では、これまでも体脂肪計や骨健康度計身体能力の計測を行う装置を導入してきましたが、頭脳に関するテストを行う装置の導入は初めてです。ぜひご利用ください。



■図書館に検索システムが入りました

今回導入した検索システムでは、お客様がお探しの図書を当館が所蔵しているかどうか、パソコンで検索できます。また、調べた図書の一覧表を印刷できるようになりました。「デジタルアーカイブ」内の貴重な和装本は全ページ画像でご覧いただけるもので、従来ウェブサイトで開催していましたが、このシステムでも閲覧できますのでご利用ください。



◆◆お詫びと訂正◆◆

『くすり博物館だより』54号の4ページ目に記載された資料・図書ご提供者ご芳名に誤りがありました。(敬称略)

(誤)中西淳夫 → (正)中西淳朗
お詫びして訂正いたします。

◆◆資料・図書ご提供者ご芳名◆◆

久保武雄 高島文一 竹島英介
長野仁 松下美千代(松下薬局)

～ありがとうございました～
(敬称略/五十音順)

■ウェブサイトで「薬草ふれあい通信」をチェックしよう!

ウェブサイト「くすりの博物館」では、「薬草ふれあい通信」の掲載を開始しました。これは、薬草園・薬木園で開花したり結実した薬草を画像で紹介するコーナーです。写真撮影してから2日遅れ程度で掲載されますので大体の見頃がわかるようになっています。



「お天気がいいからどこか出かけようかな?」と思ったら、まずここをチェックして、散策にきてください。バックナンバーもご覧いただけます。

■新収蔵資料

三重県鈴鹿市の竹島医院・竹島英介先生より、看板を26点ご提供いただきました。この看板は、江戸時代(寛政年間)より5代続いた「たけのや薬房」で明治～大正時代に使われていたものと思われます。



内藤記念くすり博物館

開館/9:00~16:00

休館/月曜日

年末年始(12/28~1/8)

館長 篠田愛信

学芸員 稲垣裕美(編集担当)

学芸員・司書

野尻佳子・伊藤恭子

庶務 森田麻起子

小島敦子(見学受付)

沼田 望(見学受付)

薬用植物園(栽培管理)

菊谷辰行 栗本裕康 亀谷芳明

顧問 青木允夫

アドバイザー 逸見誠三郎